

<手順>

①ポンプの電源プラグをコンセントから抜く

②野菜を撤去する

果菜:鉢カバーを外し、果菜鉢と根の間をはさみで切り、栽培槽から根を取り出す。

※果菜鉢は壊れるまで、繰り返し使うことができます。

葉菜: スポンジごと引き抜いてください。

③液肥水の排出

栽培槽に接続している方のチューブを抜き、右写真のようにバケツに入れてポンプを動作してください。ある程度液肥水が抜けたらポンプを止めてください。排出した液肥水は土栽培や花壇の水やりに使えます。

④各部を水できれいに清掃し、乾燥させる

ポンプは分解して掃除することをお勧めします。

⑤栽培しない場合は、直射日光、風雨の当たらない場所に保管する

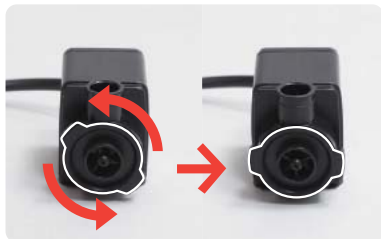


ポンプの掃除

栽培終了時、またはポンプが動作しない時は、分解して掃除してください。

●掃除の仕方

1 キャップを左の写真のように回してはずしてください。



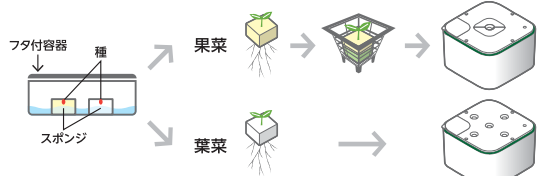
2 インペラーユニットを引き出し、写真のように分解してください。磁石が付いているので、多少力を入れても破損しません。



3 インペラーユニットを水洗いしてください。ステンレスシャフトに液肥の結晶が固着している場合は、写真のように市販の食酢に分解したインペラーとステンレスシャフトを30分~1時間つけてください。



ポンプは消耗品です。分解、清掃をしても液肥水を汲み上げない時は、交換してください。

こんな時	調べるところ	対処方法
芽が出ない ※野菜により発芽の速度が異なりますが、1週間~10日を目安に確認してください。	種を植えたスポンジの乾燥具合	●スポンジが乾燥して、種への水分が不足しています。正しい位置にセットされているかを確認し、再度水を含ませてください。(P9 参照)
	スポンジに植えた種の深さ及び水位	●種を深く植えすぎています。または水位が深くなっているため、種が水に浸かりすぎると、種がくさっている可能性があります。発芽しないようなら、新しい種を植えなおしてください。(P17, P18 参照)
	種	●種の発芽率は100%でないため、新しい種を植えなおしてください。種が古かったり、保存状態が悪いと発芽しない場合もあります。
	気温	●発芽には温度が低すぎる、または高すぎる可能性があります。発芽最適温度は果菜20~30℃、葉菜15~25℃が適温です。適温でない場合、別の容器で発芽させることをお勧めします。  【気温が高すぎる時】冷暗所等涼しい場所に置く。 【気温が低すぎる時】タオルをまいて、コタツの中や冷蔵庫の上等のあたたかい場所に置く。
苗が枯れる、うまく育たない	設置場所	●以下の場所に設置した場合うまく育ちません。場所を変更してください。 ①太陽光が西日しか当たらない場所、または太陽光が入りにくい場所。 ②高温多湿になる場所。 ●雨風が強くと当たる場所に設置している場合、囲いをして保護してください。
	液肥水濃度	●濃度が薄くなっている場合があります。再度、液肥水を作り直してください。 原因: 液肥の入れ忘れ、または雨が降り、スポンジから雨水が栽培槽に多量に浸入した恐れがあります。 ●濃度が濃くなっている場合があります。再度、液肥水を作り直してください。 原因: 葉が多量に水だけを蒸散してしまうため。
	水温、気温	●夏の場合 気温が上がると、水温が上昇し根が弱ります。また強すぎる日差しが葉をしおれさせます。日中30℃を越えたら、遮光してください。(P12 参照) ●冬~初春の場合 急激に気温が下がると、根と葉が弱ります。特に夜間は苗をビニールフィルムなどで囲って保護してください。